小学校と地域をつなぐ「キャリア教育」(前編)
～茨城県美浦村立木原小学校「キッズ☆カンパニー」を事例に～

筑波総研 株式会社　主任研究員
キャリアコンサルタント　冨山 かなえ

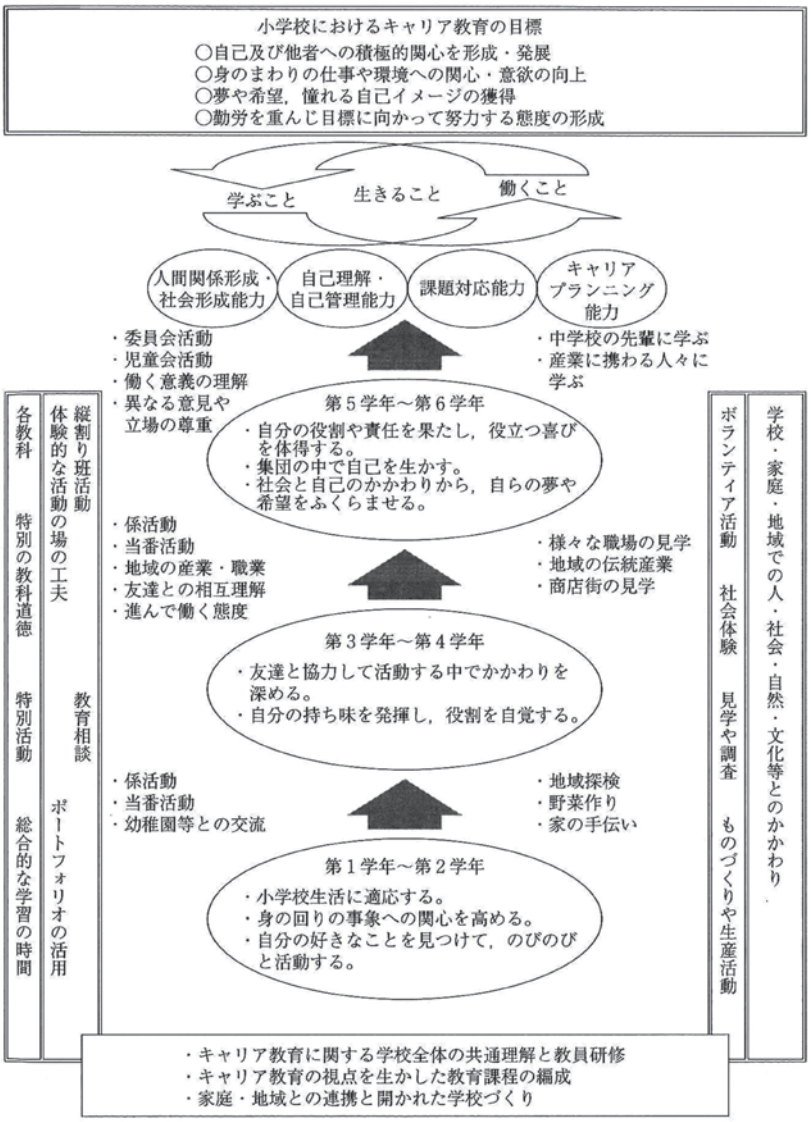
1. “自分らしい生き方”を実現する「キャリア教育」

これからの社会変化は、私たちがこれまで経験したことのない速さで、かつ、激しいものになることが予想される。

こうした状況においても、私たち特に日本の将来を担う子どもたちは、“自分らしい生き方”を模索しながら、次の時代を切り開く「生きる力」を身に付ける必要がある。

そのためには、他者や社会との関わりの中で課題を見つけ、学び、考え、自分の役割を果たしながら“自分らしい生き方”の実現に向け、様々な経験の積み重ねを行うことが重要になってくる。

こうしたことから、学校教育では子どもたちが社会人・職業人として自立するために必要な能力などを育てる必要がある。特に小学校の段階から「学校教育と職業生活の接続」を意識した「キャリア教育」を実践することが求められる。



■小学校におけるキャリア教育の全体像
(出典：藤田晃之編著『キャリア教育』MINERVAはじめて学ぶ教職19から抜粋)

小学校におけるキャリア教育で重要な点は、将来の進路に対する直接的な探索・選択ではなく、将来、望んだ通りの進路を達成するための「基盤」を形成することにある。ここでいう「基盤」とは「自己及び他者への積極的関心の形成・発展」や「身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上」などを指す。

また、子どもたちが「基盤」の形成を実現するためには、学校が家庭や地域社会と連携・協働し、それぞれが適切な役割を果たし合うことが大切となる。

そこで本稿では、学校と地域をつなぐキャリア教育を実践している、美浦村立木原小学校の取り組みに着目し、子どもたちの「生きる力」を社会全体で養うことの重要性について示したい。

2. 木原小学校における起業体験活動「キッズ☆カンパニー」

2019年11月3日、茨城県美浦村。霞ヶ浦に面する小さな村の中央公民館前広場に広がるブースで、子どもたちの元気な声が響く。「いらっしゃいませー！」、「美浦村の特産品を販売中です！」、「美味しいですよ～いかがですかー！」。

これは「“みほ”産業文化・スポーツフェスティバル」の一場面である。美浦村立木原小学校6年生が運営する「キッズ☆カンパニー」の各店には、開店と同時に多くの客が列を成した。

■木原小学校の児童が運営する「キッズ☆カンパニー」の販売会の様子（2019.11.3 筆者撮影）

(1) キャリア教育先進校「木原小学校」～人間性豊かな児童を育成する～

美浦村立木原小学校は、約500年前に築かれた木原城跡地の一角に建ち、開校145年を迎えた歴史ある小学校である。

全児童数は216名(2019年11月29日時点)、同校の教育目標は「知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成 」である。

2013年度に同校で開始された起業体験活動「キッズ☆カンパニー」は、毎年6年生が活動するもので、今年で7年目を迎える。キッズ☆カンパニーのようなキャリア教育の取り組みを小学校で実践する事例は、全国でも珍しい。

また、同校は、2016年からの2年間、日本銀行水戸事務所から「金銭教育研究校」に指定されたほか、2018年には「第12回キャリア教育優良学校文部科学大臣賞」を受賞するなど、茨城県内のキャリア教育先進校といえる。

(2)「キッズ☆カンパニー」の取り組み経緯～「働くことは楽しい！」を伝えたい～

キッズ☆カンパニーは、美浦村商工会青年部部長（当時）で、村内で不動産業を営む株式会社鈴生ハウジングの代表取締役 鈴木聡使氏の次の想いから始まった。

「約7年前、当社の採用試験に応募してきた高校生と面接した時、『働きたくない』という言葉が飛び出しました。私は非常に驚き、正直、怒りさえ感じました。しかし一方で、私たち大人が子どもたちに、働くことは“辛い”、“楽しくない”というイメージを植え付けてしまっていたのかもしれない、と感じたのです」。

そこで、鈴木氏は地域の子どもたちが働くことの楽しさを感じられるイベントを立ち上げようと提案、計画を練り始めた。

「当初は、商工会青年部独自の取り組みとして展開しようと考えており、小学校との連携は全く考えていませんでした。しかし偶然にも、同時期に木原小学校で職業体験を企画していたのです。そして、その2つの動きを把握していた商工会青年部の前部長で、当時、美浦村の教育委員を務めていた方が両者を引き合わせたことで、商工会青年部と小学校が連携することになりました」。

(3)「キッズ☆カンパニー」とは～年間40時間を使い、企業経営を学ぶ～

現在では、村の産業祭で地域の様々な商品を販売するまでに成長したキッズ☆カンパニーであるが、最初から順調であったわけではない。

鈴木氏は「キッズ☆カンパニー開始前、児童は、校内で栽培したサツマイモを材料に商品を開発・販売するという経験はありました。しかし正直、小学生の経営に関する知識・関心レベルが全く分からず、毎回、試行錯誤の連続でした。そこでまず、事業を始めるための事業計画書を作成することにしたのです」と振り返る。

キッズ☆カンパニーは、6年生（1クラス）が「総合的な学習」の時間を活用し週に1コマ、年間約40時間で会社運営について学ぶ。

キッズ☆カンパニーは、6つの会社を作ることから始まる。5月、クラスの中から社長になりたい児童6名が立候補し、担任と相談しながら他の児童を6社に振り分ける。今年度初めて6年生の担任を務める小島亜希子教諭は「児童たちは、5年間一緒に過ごし、それぞれの性格や得意なことをよく知っています。6名の社長は全体のバランスを考慮し、各社の人事を決定しました」と振り返る。

	社名	経営目標 (一部抜粋)
1	サンデー☺フード	安心して食べていただけるように、信らいしてもらえる営業をする
2	Wonderful🍀Happiness	お客様にとって、みとめてもらえるような会社を創り、笑顔で営業する
3	スマイルキッズ	買って良かったなと思ってもらえるような会社にする
4	" 感謝と幸せを運ぶ会社 ハッピー☺サンクス "	お客様にとって、信らいしてもらえる会社にし、心に残る商品を提供する
5	future assist	お客様にとって、おもてなしが出来て、笑顔がたえない会社
6	ハッピーフードパラダイス木原	心に残る接客ができる会社

■2019年度「キッズ☆カンパニー」6社の概要
(各資料を基に筆者作成)

その後、児童たちは、利益計画を立てる経理担当2名、販売促進戦略を立てる営業担当3～4名を決定し、経営目標などを掲げた会社概要書を作成。6月に決起大会、7月に村内の公営施設での販売体験や役職ごとの勉強会、仕入商品の選択(後述)を行い、9月に事業計画書を完成させる。

10月に筑波銀行美浦支店長を審査委員長とする融資審査会(後述)、11月には産業祭での販売会実施、その結果を事業計画で立てた利益計画と比較しながら決算報告書にまとめ、報告を行う。12月、各社長が村役場を訪問して村長に税金を手渡し、キッズ☆カンパニーが完了する。

小島教諭は「今年、児童たちとある約束をしました。それは『ワン・チャレンジ』。去年と同じ活動にしないため、各社で1つ新たなチャレンジに挑むことを事業計画に盛り込みました」と語る。

また、キッズ☆カンパニーは、今年度から企業数を4社から6社に増やした。同校の田組順和校長は「会社数が増えたことで各社の人数が減り、各児童の役割が明確になったことで、一人ひとりの責任も重くなりました」と指摘する。

(4) 通年で指導する商工会青年部
～「教え過ぎない」がキーワード～

美浦村商工会青年部員約30名のほか、キッズ☆カンパニーの取り組みに賛同した地域団体は、年間を通じ、児童たちに会社運営に必要な専門的知識などを提供する。

具体的には、会社経営に関するアドバイスなどを美浦村商工会青年部、商品選定や販売促進の助言を美浦村商工会女性部や株式会社まちづくり美浦が行い、融資の知識を筑波銀行美浦支店、税金の知識を美浦村役場税務課が担当する。

特に立ち上げから関わってきた鈴木氏は、キッズ☆カンパニーのキーマンとして、各団体との調整から資料作成まで多くを担当。自らの事業も抱えながらの苦労について伺うと、「私は自分の信念を持ち、自分ができる範囲内で活動しているため、負担と感じることはありません。また、教育現場は非常に忙しいという話を耳にしますので、自分たちが資料を作成することで、少しでも担任の先生の負担軽減につながれば良いと思っています」と語った。

また、児童たちから寄せられる質問について、「『融資審査時、銀行はどんな質問をしますか』、『この売り方は、お客様にどう思われますか』などリアルな質問が多いです。しかし、教える・指導するのではなく、ほんの少し手助けを行い、児童が『自分で考えるのが一番楽しい！』と思えることを大切にしています」と鈴木氏は語る。

■キッズ☆カンパニーのキーパーソン商工会青年部の鈴木氏(左)と筑波銀行美浦支店 木所支店長(右)
(2019.11.29 筆者撮影)

(5) 最難関の「融資審査会」
～筑波銀行美浦支店長からの鋭い質問～

10月に行われる融資審査会では、審査委員長である筑波銀行美浦支店長を筆頭に、商工会青年部、地元スーパーの支店長、食生活改善推進員協議会の委員などから厳しい質問が飛び交う。なお、筑波銀行がキッズ☆カンパニーに参画したのは2014年から。今年で6年目となる。

2019年10月11日に実施された融資審査会では、6社中4社を承認。非承認となった2社は事業計画を見直し、融資を受けられることになった。

融資審査会の長を務める筑波銀行美浦支店の木所支店長は、キッズ☆カンパニーの取り組みについて次のように語る。

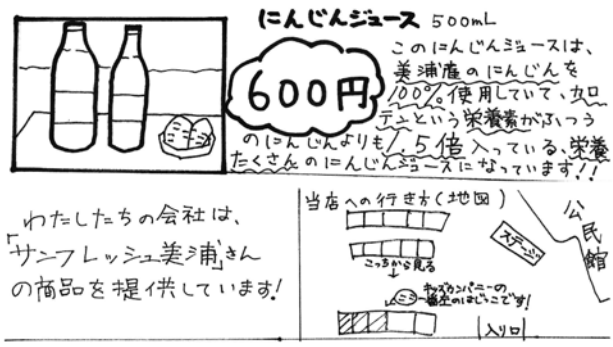
「毎年、児童のプレゼン能力が向上しているように感じています。これは、5年生も融資審査会に参加するほか、廊下に張り出された事業計画書を見ることで、下級生たちが『6年生になったら自分たちもキッズ☆カンパニーをやるんだ』という意気込みが背景にあると感じています」。

「また、キッズ☆カンパニーでは“褒めて伸ばす”というより、失敗しそうな時でも口出しせず、児童自身が『なぜ失敗したのか』『成功するためにはどうしたらよかったのか』など自発的に物事を考えられるようにしていることが非常に印象的です」。

「今年の融資審査会で印象に残った企業は、『Wonderful🍀Happiness』社です。児童たちは、にんじんジュースの美味しさを知ってもらうため、定価を800円から600円に値下げして消費者の購買意欲を上げる代わりに、他の商品を値上げし全体の利益バランスを取るという高度な戦略を打ち出しました。この価格設定は見事でした」。

(6) キッズ☆カンパニー賛同者による商品提供
～児童が仕入量や価格を決定～

キッズ☆カンパニー各社が販売する商品は、地域の特産物などで、各社で異なる。7月に商品提供者が各商品のプレゼンを行い、児童はどの商品を販売するか検討し、仕入量や価格を設定する。



■Wonderful🍀Happiness社作成のチラシ（一部抜粋）

小島教諭は「どの商品を販売するかは、各社が相談して決めます。しかし今回、ワッフルの販売を希望する会社が2社重なりました。そのうちの1社は女子が社長で、ピンクがカンパニーカラー。すると、もう一方の社員が『女子が社長の会社がワッフルを販売した方が売れると思う』と発言し、自らは弁当の販売に切り替えたのです。もちろん、教師がそのように指示をしたのではありません。児童たちは『自分の会社だけが有利になるように』と考えるのではなく、『クラス全体が良い方向に向かうように』と考えて発言・行動するようになりました」と児童たちの成長を語る。

今年度、キッズ☆カンパニーで取り扱った商品は、全社合わせて17品。仕入先は取り組みに賛同した民間企業が4つ、地域団体が2つである。

	商品提供先	商品	取り扱い企業
1	美浦村食生活改善推進員協議会	マッシュルームまぜごはん他1点	future assist
2	みほふれ愛プラザ地域産品直売所内かあさんの台所	キャベツメンチ2個入り他2点	ハッピーフードパラダイス木原
3	美浦村商工会女性部	ワッフル2種	ハッピー😊サンクス
4	サンフレッシェ美浦	にんじんジュース他4点	Wonderful🍀Happiness
5	そうざい屋かわぎし	弁当	サンデー🌞フード
6	㈱まちづくり美浦	安中いちごサイダー他3点	スマイルキッズ

■商品提供先など（各資料を基に筆者作成）

児童は販売前に試食するほか、提供先へヒアリングを行い、各商品のアピールポイントをチラシに掲載するなど提供先をPRすることも忘れない。

販売会や決算報告会、納税の様子は、本稿の後編として「筑波経済月報2020年3月号」に記載する予定である。